

取組の柱②：インド太平洋流の課題対処

事例⑮：持続可能な航空燃料（SAF）

1. 基本的な考え方

●国際航空において 2050年カーボンニュートラルを目指すCO2削減の長期目標（LTAG）が昨年採択され、その達成のためには持続可能な航空燃料（SAF）の利活用が重要とされたところ。

●また、国際航空からのCO2排出削減枠組み（CORSIA）においても、オフセット義務の新たな基準が採択されたところであり、2024年からの新たな基準適用開始以降、当該基準に対応するためにSAFの供給拡大が喫緊の課題。

●インド太平洋地域は、地理的要因やSAF原材料の賦存という観点から、インド太平洋地域の主要国と連携してSAFに関する取組を進め、SAFの供給拡大を図ることは極めて重要な意義を有する。

⇒ **インド太平洋地域でSAFに関する先進的な取組を進め、SAFの供給・利用拡大を図ることで世界における航空の脱炭素化を牽引する。**

2. 具体的な取組

●外国航空当局とのSAF利活用に関する連携の強化

（例）グリーンレーン構想

●SAFに関する途上国への能力構築サポート

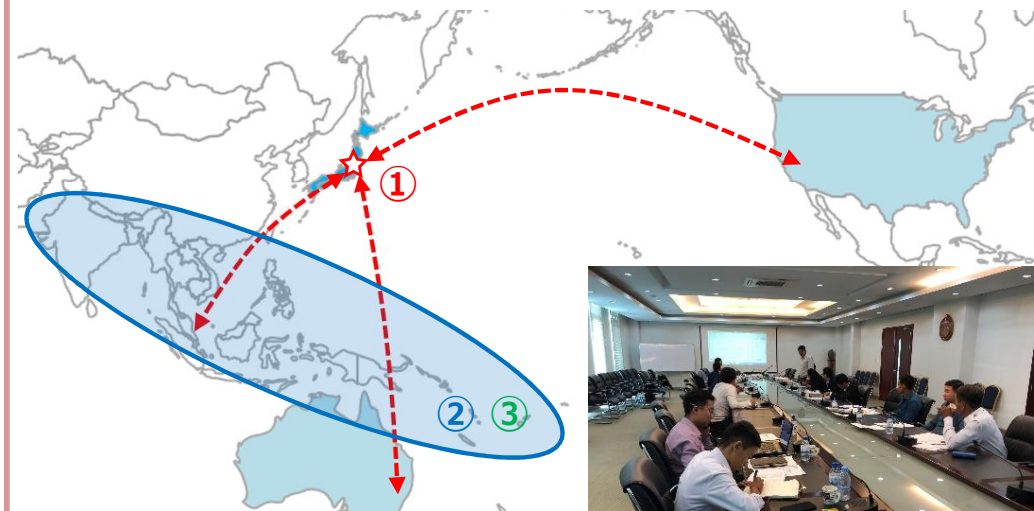
（例）ICAOのACT-SAFプログラムを通じたキャパシティビルディング（能力構築）活動

●インド太平洋地域におけるSAF製造支援

（例）JOIN（海外交通・都市開発事業支援機構）を活用したインド太平洋地域におけるSAF製造支援

① グリーンレーン構想

特定の空港との路線で、SAFを使用したフライトの実施
SAFの共同購入など、脱炭素化に資する取組を象徴的に導入



③ SAF製造支援

インド太平洋地域においてSAFの製造を希望する企業に対する、JOINを活用した資金援助の実施



② 能力構築サポート

支援提供を希望する国に対してSAFの供給拡大に向けた政策導入に関する支援を提供